

## 蔵王山の火山活動解説資料

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続＞

本日（16日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜をはじめ蔵王山付近の噴気活動や地表面の状況に異常は認められませんでした。

蔵王山では、1月28日に地殻変動を伴う火山性微動が発生してから、火山活動がやや高まった状態となっています。今後小規模な噴火が発生する可能性があります。

### 【防災上の警戒事項等】

想定火口域（馬の背カルデラ）から概ね1.2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には、火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

## ○ 活動概況

### ・噴気など表面現象の状況（図1～図6、図7-①）

本日（16日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜とその周辺、振子沢付近、傾城岩<sup>けいせいいわ</sup>付近<sup>けいせいいわ</sup>硫気変質地帯<sup>1)</sup>及び<sup>ほらいがわ</sup>葦川上流域硫気変質地帯に噴気や地熱域は認められませんでした。また、前回（2月1日）と比較して、丸山沢噴気地熱地帯の噴気や地熱域の状況に特段の変化はみられませんでした。

監視カメラによる観測では、噴気は確認されていません。

### ・地震や微動の発生状況（図7-②③）

2月8日に振幅の小さな火山性微動が発生しました。1月28日以降、火山性微動の発生回数は6回となっています。

1月28日の火山性微動の発生後、御釜付近が震源とみられる火山性地震が発生しています。

### ・地殻変動の状況（図8）

坊平観測点及び熊野岳観測点の傾斜計<sup>2)</sup>では、山頂の南方向が隆起する地殻変動が続いていましたが、2月4日頃からは停滞しています。

GNSS<sup>3)</sup>による山体及びその周辺の地殻変動データに特段の変化はありません。

1) 噴気や地熱により、土壤に硫黄の昇華物等が見られる場所。

2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。

3) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ ([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

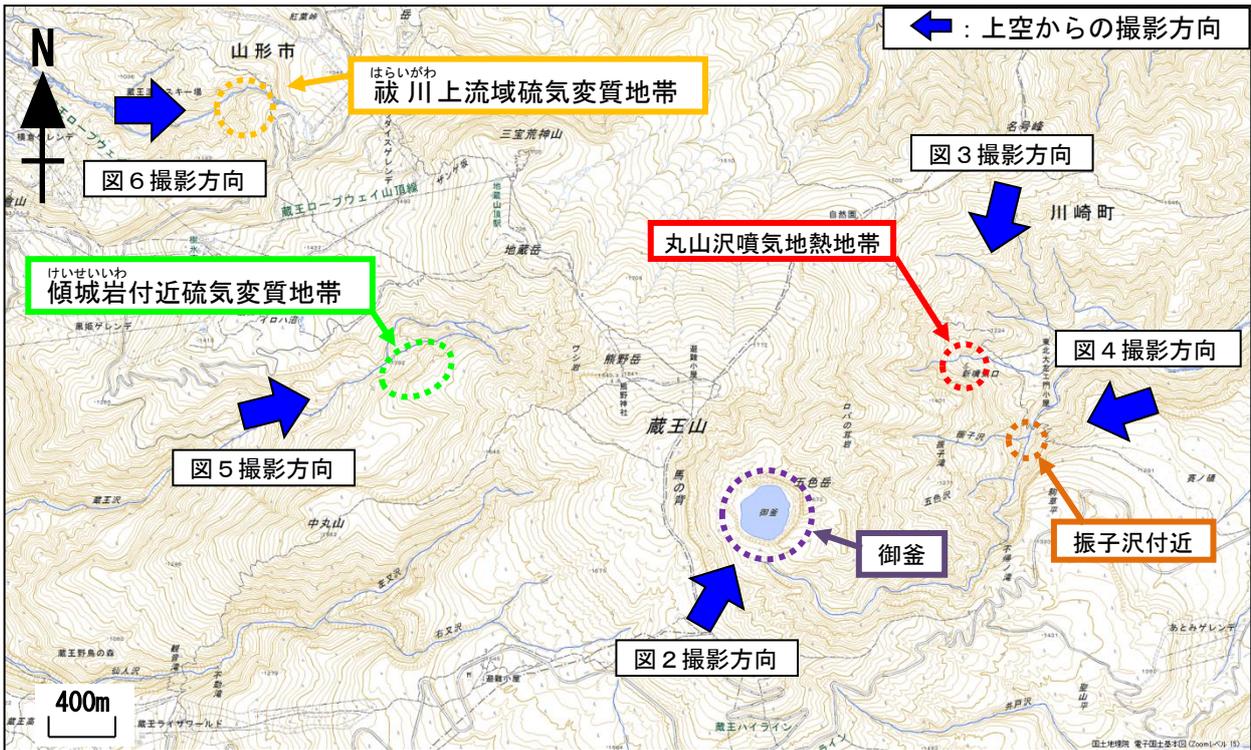


図1 蔵王山 上空から撮影した写真及び地表面温度分布<sup>4)</sup> 撮影方向

4) 赤外熱映像装置による観測。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

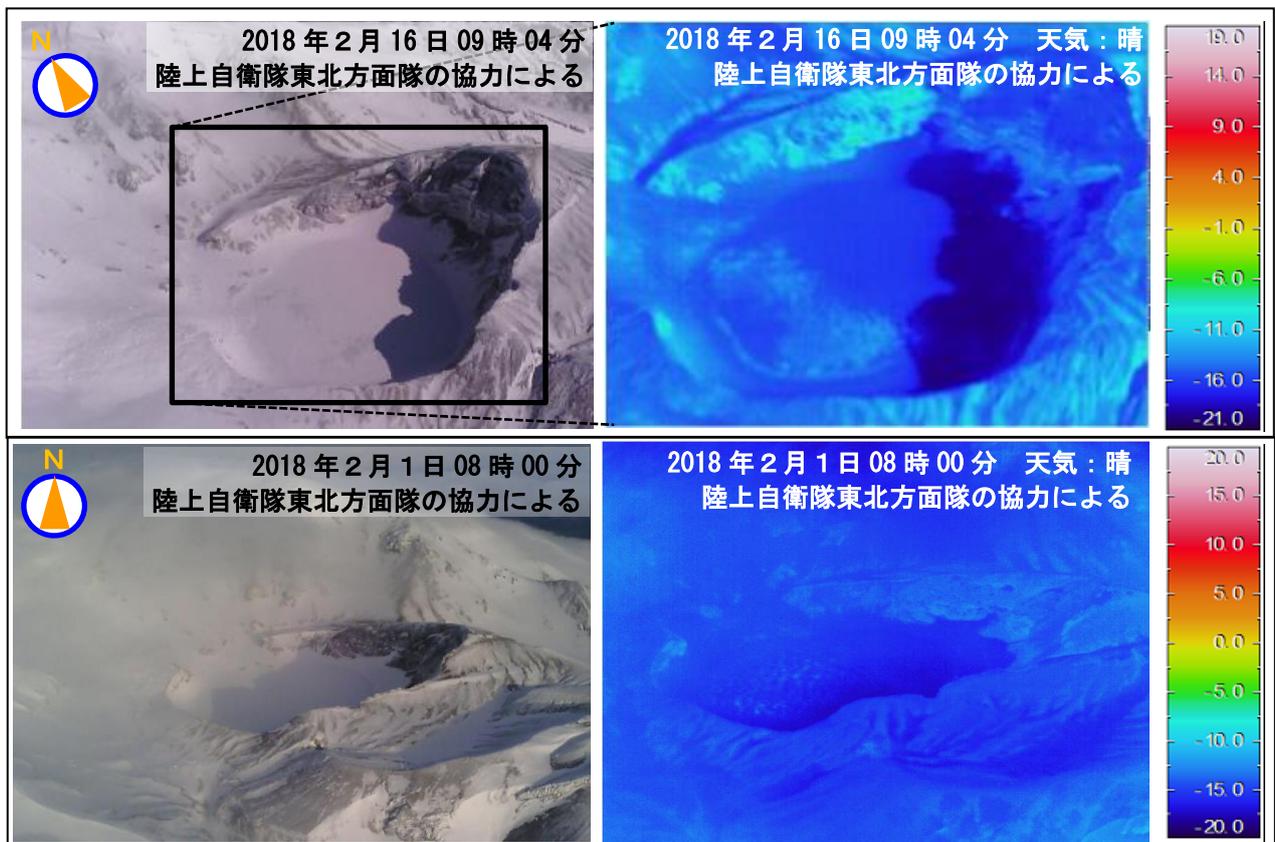


図2 蔵王山 上空から撮影した御釜の状況と地表面温度分布

・噴気及び地熱域は認められませんでした。

※赤外熱画像にみられる周囲より温度の高い部分は、岩などが日射により温められたことによるものと推定されます。

※前回は南方向から撮影しています。

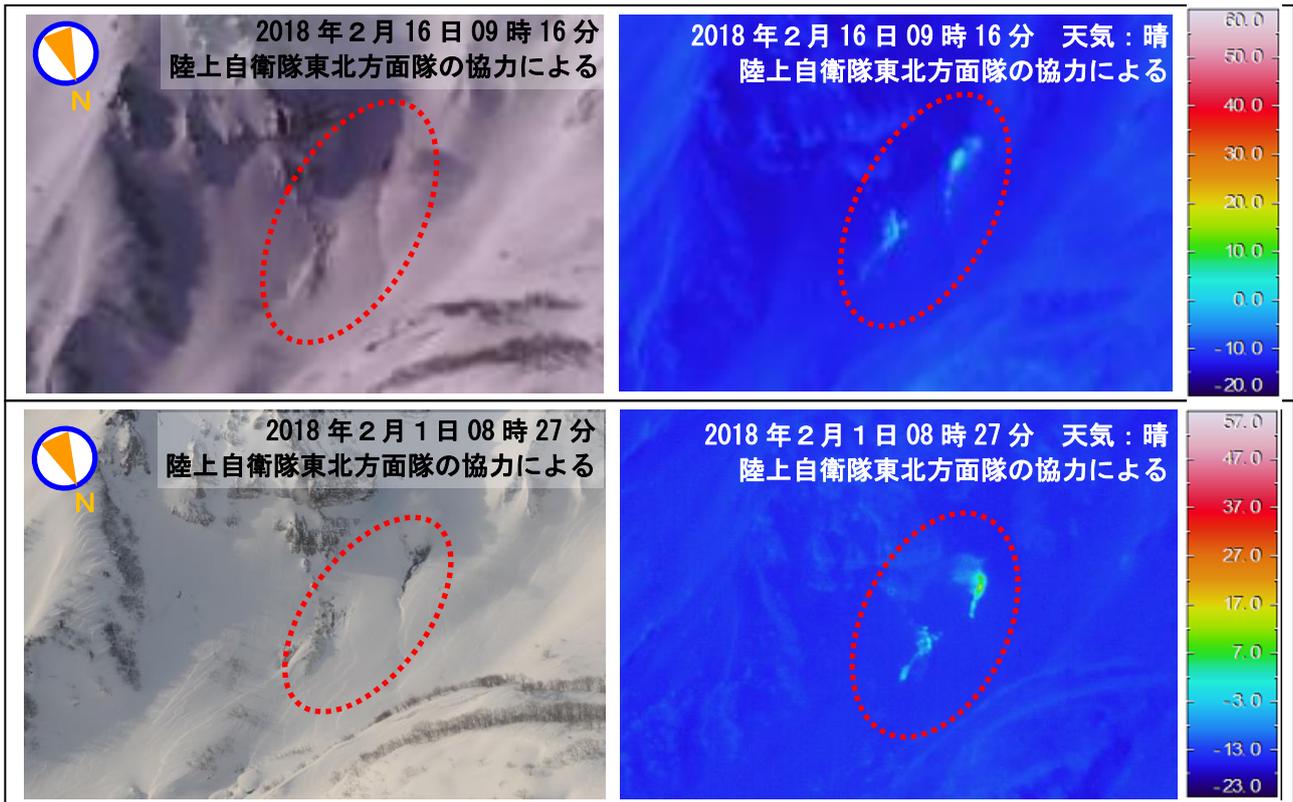


図3 蔵王山 上空から撮影した丸山沢噴気地熱地帯の状況と地表面温度分布

- ・噴気及び地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・赤破線で囲んだ部分が地熱域です。
- ・図中の破線の色は、図1の破線の色に対応します。

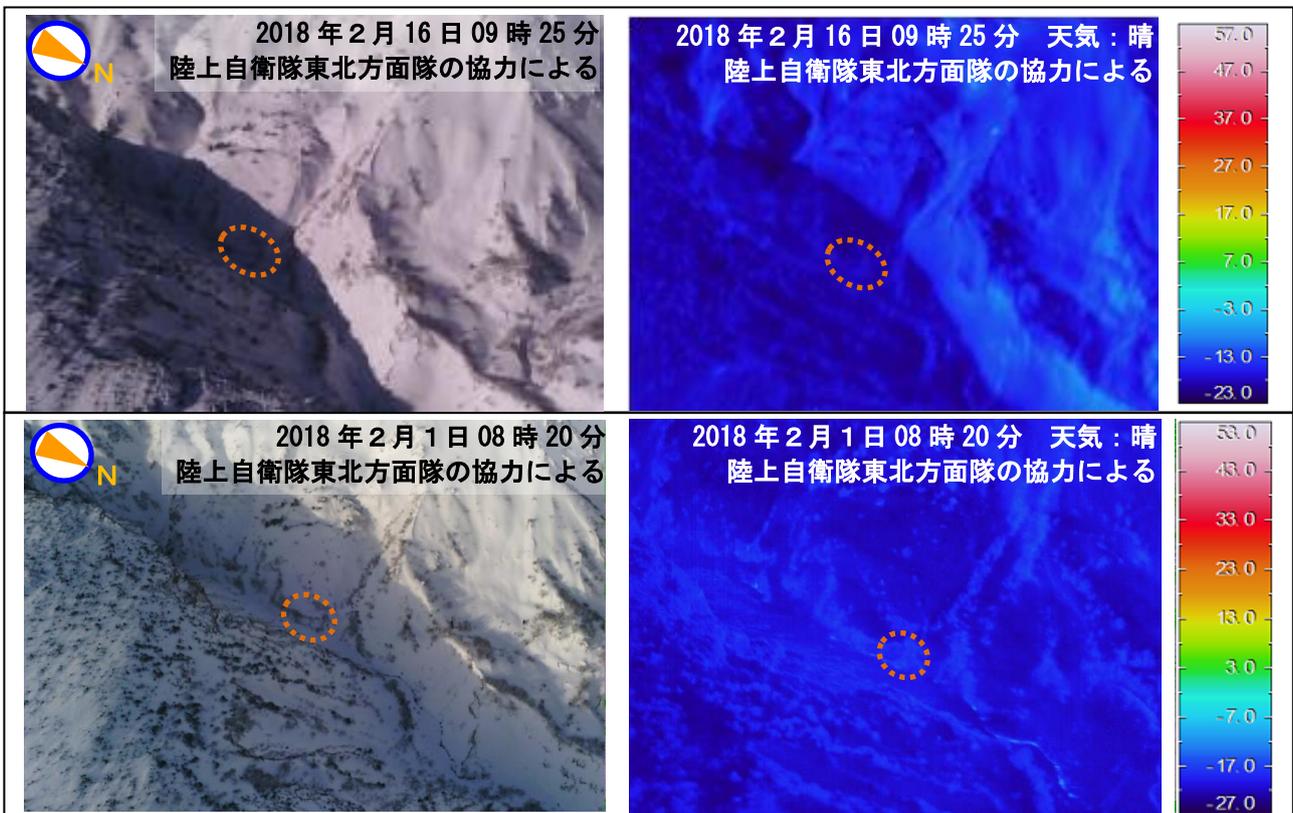


図4 蔵王山 上空から撮影した振子沢付近の状況と地表面温度分布

- ・2015年に温泉湧出がみられていた箇所（茶破線内）において、高温域は認められませんでした。
- ・図中の破線の色は、図1の破線の色に対応します。

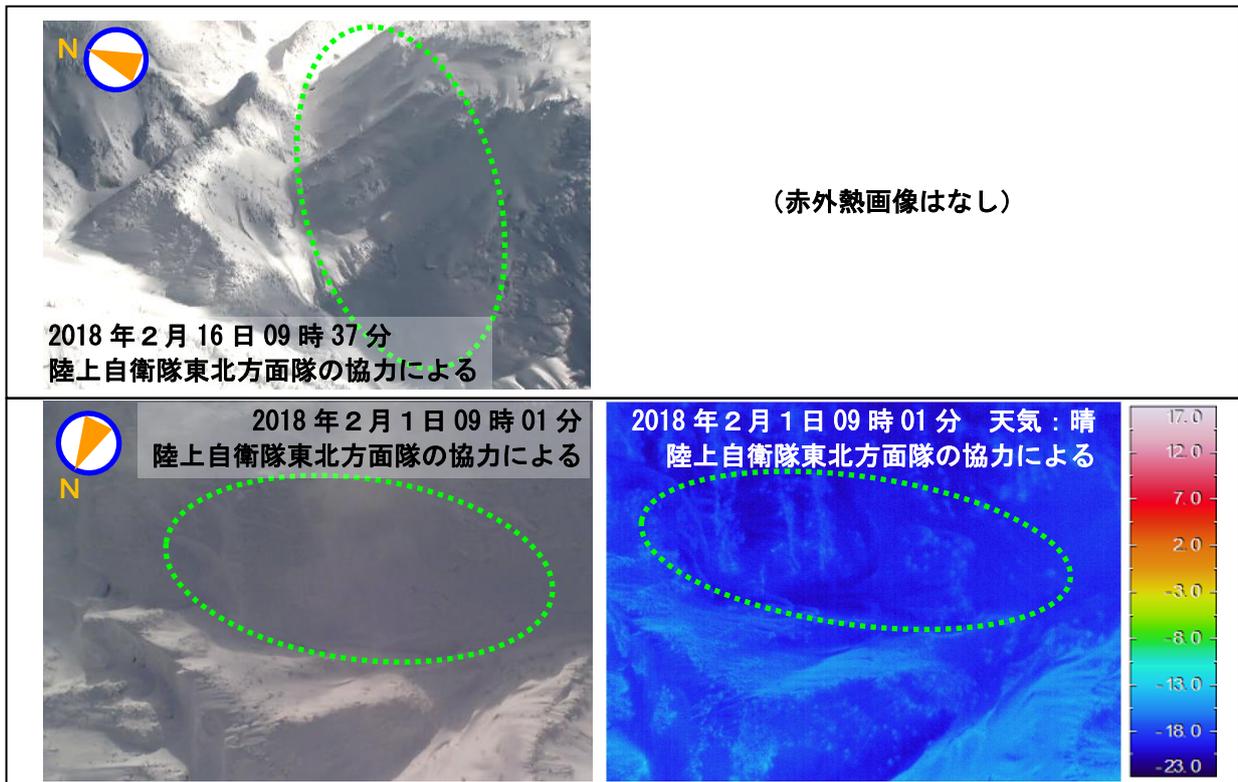


図5 蔵王山 上空から撮影した傾城岩付近硫気変質地帯の状況と地表面温度分布

- ・噴気及び融雪域はみられませんでした。
- ・緑破線で囲んだ部分が硫気変質地帯ですが、雪に覆われて見えていません。
- ・図中の破線の色は、図1の破線の色に対応します。

※前回は北北西方向から撮影しています。

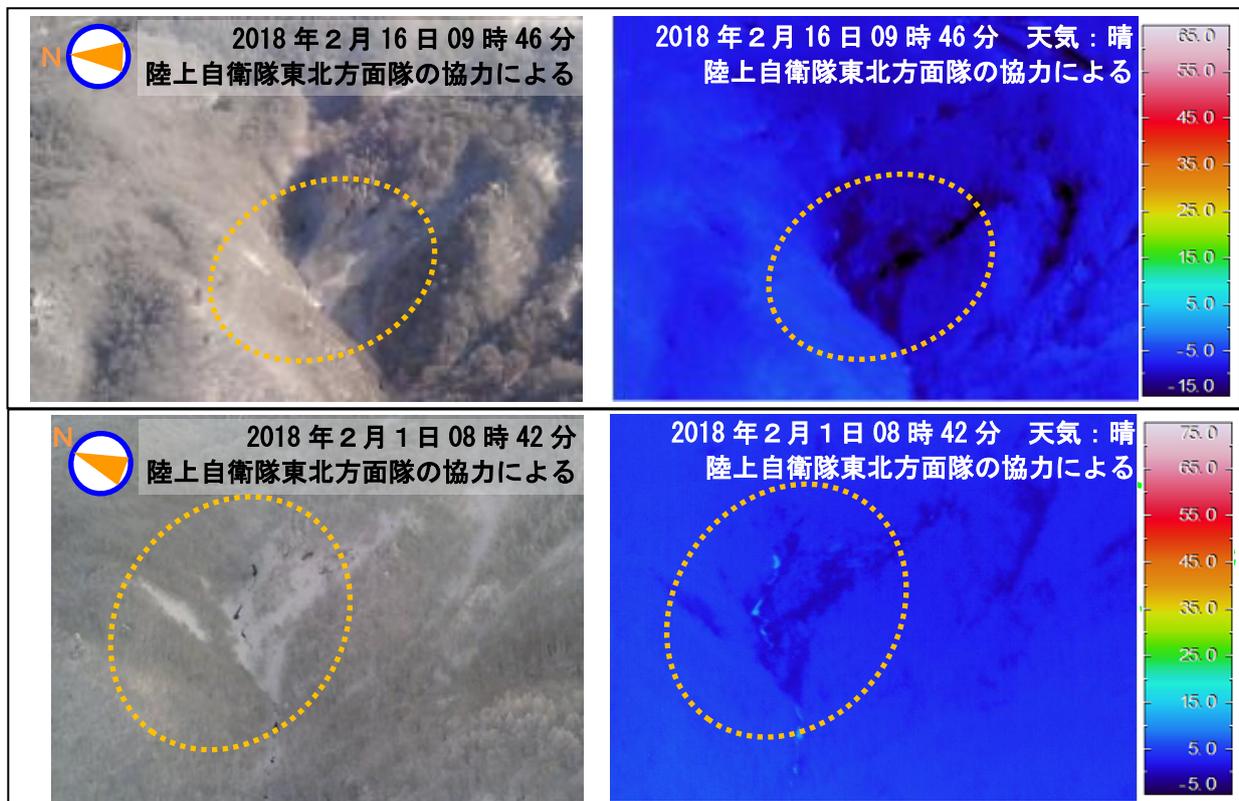


図6 蔵王山 上空から撮影した祓川上流域硫気変質地帯の状況と地表面温度分布

- ・噴気及び地熱域はみられませんでした。
- ・橙破線で囲んだ部分が硫気変質地帯ですが、雪に覆われて見えていません。
- ・図中の破線の色は、図1の破線の色に対応します。

※前回は西南西方向から撮影しています。また、可視画像の雪が解けている部分は河川によるものと推定されます。

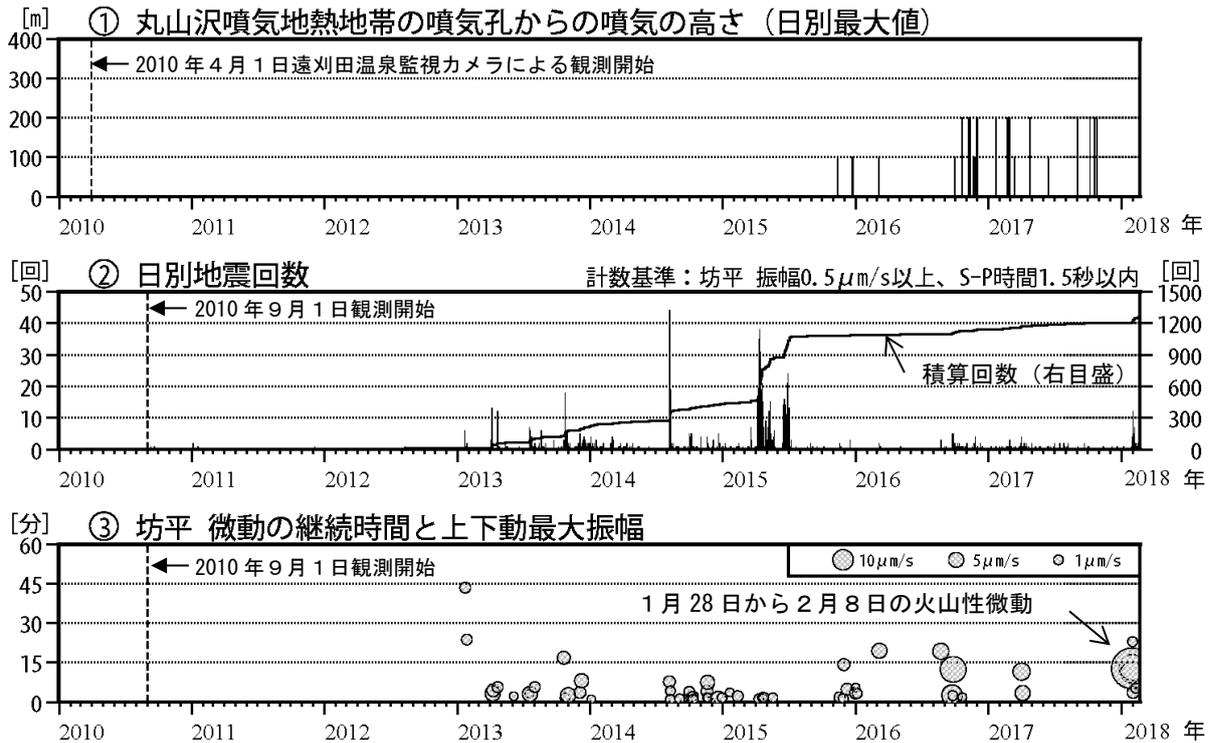


図7 蔵王山 火山活動経過図 (2010年4月～2018年2月16日)

- ・回数は速報値で精査後修正される可能性があります。
- ・①遠刈田温泉 (山頂の東約13km) に設置されている監視カメラによる観測です。

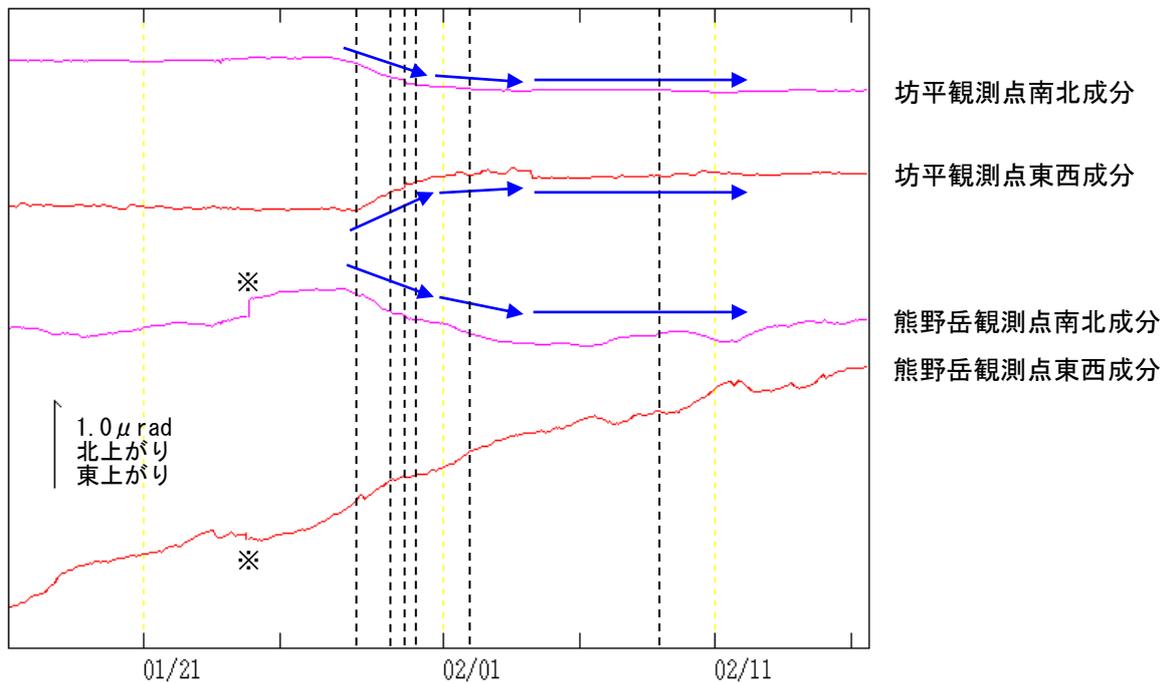


図8 蔵王山 坊平観測点及び熊野岳観測点での傾斜変動  
(2018年1月16日00時00分～2月16日15時00分)

- ・1月28日の火山性微動発生以降、山頂の南方向が隆起する (南東上がり) 変化が継続していましたが、その後31日頃から変化が緩やかになり、2月4日頃からは停滞しています (青矢印)。
- ・破線は火山性微動が発生した時間を示します。
- ・ $1\mu\text{rad}$  (マイクロラジアン) は、1km先が1mm上下するような変化量です。
- ※2018年1月24日19時51分の青森県東方沖の地震 (M6.3) による変動

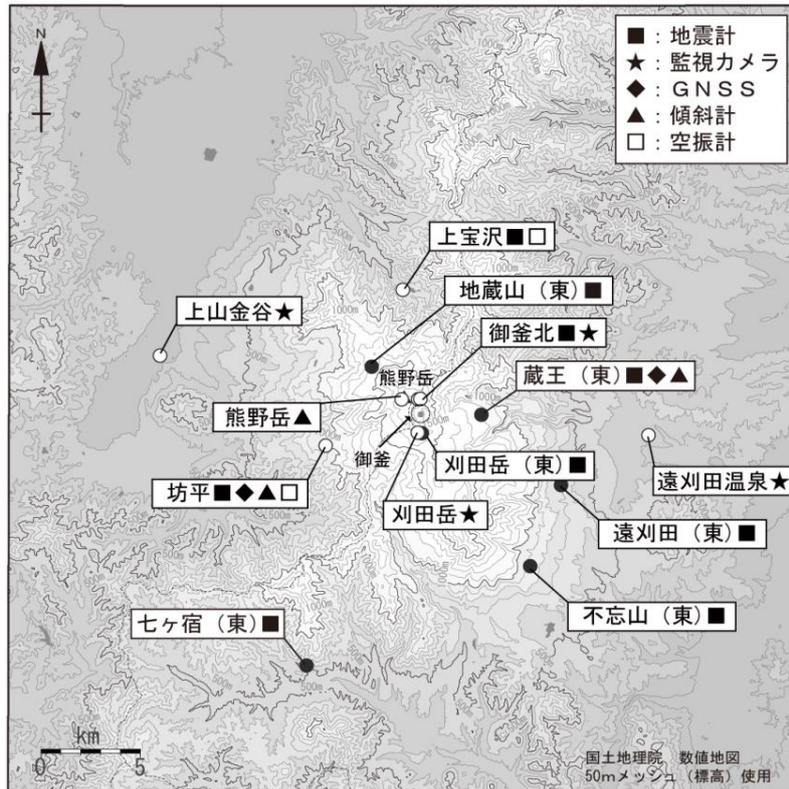


図9 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学

※刈田岳 : 冬期運用休止中。